

第5章

食べるということ

摂食嚥下の理解

- 5-1. 食べる
- 5-2. 5期モデル
- 5-3. 舌の運動と食べられるもの（食形態）の関係
- 5-4. 認知症の進行と食事の食べ方
- 5-5. 食事介助のポイント

5-1. 食べる

「食べる」ことを、医療、介護の世界では摂食嚥下と呼びます。食べる機能のことを摂食嚥下機能と呼びます。

正直、わたしは摂食嚥下の専門家ではありません。ただしょうわで嚥下障害のために食事を摂れない利用者に何とかして食事を摂らせたいと考えて工夫を重ねてきた結果から気が付いたことをみなさんに説明できたらと思います。

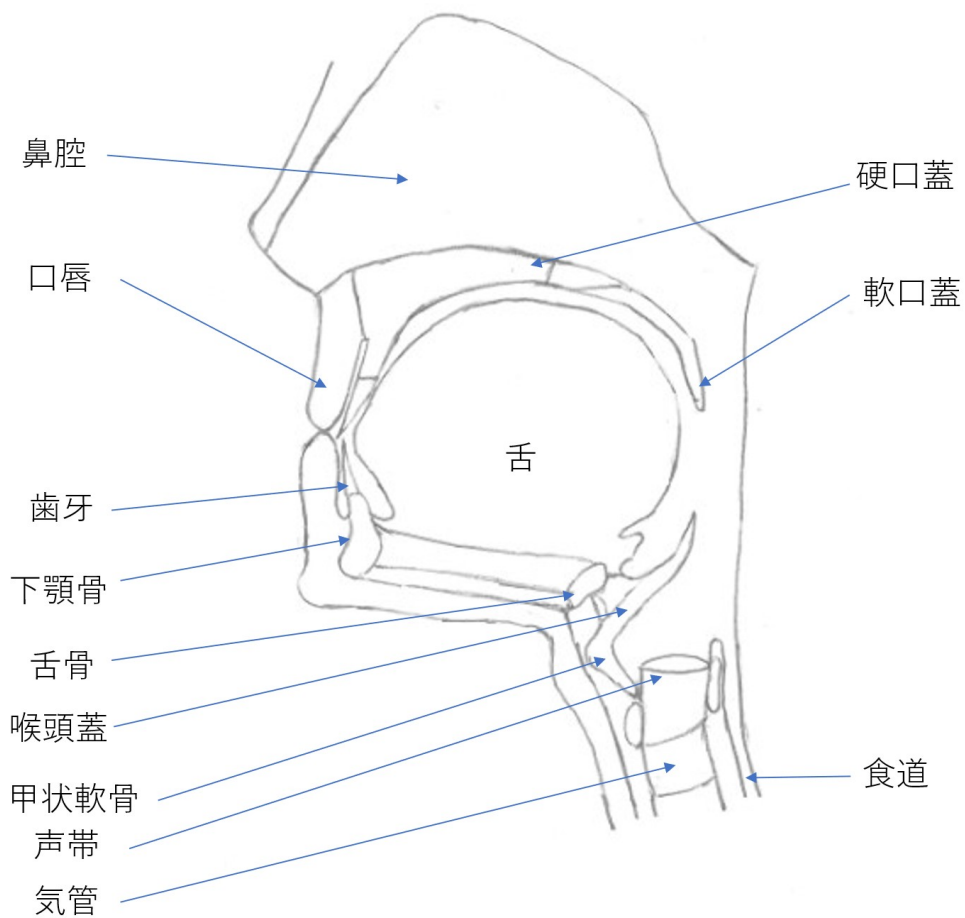
ですから、これからの説明に摂食嚥下のプロからしたら様々な間違いを指摘されると思いますが、あえて書かせていただきます。

ということで、食べることについてお話しするためには、まず口の構造について理解していただかなければなりません。解剖というやつです。わたしの最も苦手な分野で、今まさに解剖学の本を傍らにおいて書いています。そのあたりご理解いただきながら話を勧めさせていただきます。

みなさんも大変だと思いますがお付き合いしてください。

まず、これが顔の断面になります。

食べるために必要な部位を大まかに上げておきます。



食べるためには以下条件を満たすこと必要になります。

- ① 前傾姿勢が取れる
- ② 頸部の可動制限がない（首を自由に動かせる）
- ③ 口が閉じる
- ④ 舌が前後、左右、上下に動く
- ⑤ 軟口蓋が鼻腔を塞げること
- ⑥ 甲状軟骨が上方方向に動く
- ⑦ 甲状軟骨が上方方向に動くことによって、喉頭蓋が下りて声帯に蓋をする
- ⑧ 声帯がきちんと閉じる

摂食嚥下の機能は5期モデルやプロセスモデルで説明されます。
まず、これらのモデルについて説明します。